

関東山地両神山東部地域における両神山スラストの追跡

Trace of the Ryokami-yama thrust in the eastern part of the Ryokami-yama area in the Kanto Mountains

伊藤 剛^{1*}, 二階堂 崇¹, 松岡 篤²

Tsuyoshi Ito^{1*}, Takashi Nikaido¹, Atsushi Matsuoka²

¹新潟大学大学院自然科学研究科, ²新潟大学理学部地質科学科

¹Sci. Grad. Sch., Niigata Univ., ²Dept.Geology, Niigata Univ.

秩父テレーン両神山層(Hisada et al., 1992の両神山チャートユニットに相当)は、関東山地両神山付近に分布する。Hisada et al. (1992)は、両神山層をほぼチャートからなり、構造的低位の両神山層(Hisada et al., 1992の両神山ユニットに相当)や野栗沢ユニットに両神山スラスト(上野ほか, 2001)を介してのナップであるとした。吉田・松岡(2003)は両神山層中に砕屑岩を認識し、両神山層がチャート-砕屑岩シーケンスの繰り返すパイルナップ構造により特徴付けられるとした。筆者らは両神山東部地域の調査を行い、両神山スラストの位置を追跡した。その結果、両神山スラストは、これまで想定されていたよりも高く位置することが明らかになった。

両神山層の最下部は単層の厚い層状赤色チャートとその低位の緑色岩からなる。赤色チャートは凝灰質で、ドロマイトを挟む。赤色チャートからはPseudoalbaillellasp.やEntactiniasp.が得られた。赤色チャートおよび緑色岩は水平に近い姿勢をもつものが多い。両神山スラストの構造的低位に分布する両神山層は単層の薄い層状チャートとメランジュにより特徴付けられ、メランジュ中にはチャート、緑色岩、砂岩、珪質泥岩や珪質粘土岩が含まれる。これらの層理面と劈開面の姿勢はNW-SE方向の走向をもち40~60°の角度でNEの向きに傾斜する。層状チャートからは、Annulotriassocampesp., Capnodocesp., Muelleritortisp.などのトリアス紀放散虫化石とコノドント化石が産出した。メランジュ中のチャートからはCanoptumsp., Parahsuumsp., Pantanelliumsp.などのジュラ紀古世の放散虫化石が得られた。

キーワード:付加体,秩父テレーン,両神山層,両神山層,関東山地,両神山スラスト

Keywords: accretionary complex, Chichibu composite terrane, Ryokami-yama Formation, Ryokami Formation, Kanto Mountains, Ryokami-yama thrust